

男女共同参画だより

No17 平成 24 年初秋

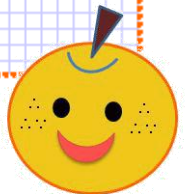
発行：八千代市

ホームページ：<http://www.city.yachiyo.chiba.jp/siyakusyo/danjo/>
トップページ ≫ くらしのガイド ≫ 男女共同参画

わたしたちが目指す
「男女共同参画社会」

一人ひとりが生きがいのある社会にするために、男女がおたがいにその人権を尊重しつつ、責任を分かちあい、家庭、職場、地域などで十分に能力や個性を発揮できる社会の実現を目指しています。

やっちだよ。
よろしくね!



やっちい

平等・平和・協同をめざして

男女共同参画週間事業

「わたしたちが次世代に伝えなければならないこと」

6月23日、男女共同参画週間（毎年6月23～29日）に合わせて、主催講座「平塚らいてうから学ぶ わたしたちが次世代に伝えなければならないこと」と題し、女性史研究家の折井美耶子さんを講師に迎え講演会を行いました。今年市制45周年記念事業と男女共同参画センター利用者研修会も兼ねて開催しました。

折井さんは「戦後の憲法制定により、性別や経済的地位に関係なく、教育を受ける自由や、選挙権、財産権などさまざまな面で平等に認められるようになり、男女共同参画社会への基盤ができました。しかし戦前の女性の地位は法的にも社会的にも平等ではなかった



講演中の折井美耶子さん。

のです。そのため平塚らいてうや市川房枝たちは、女性の地位向上の活動を行いました。らいてうは『私は永遠に失望しない』と次世代に希望を托し、市川は『権利の上に眠るな』と遺言しました。たくさんの先覚者の知恵が集結した憲法の理念や、相互扶助の精神を次世代に伝えていきたいです」とお話ししました。

ロビーには、センター利用団体の活動報告や成果を展示し、参加者は足を止めて見ていました。



講演会終了後、ロビーの活動報告を見ながら情報交換をする参加者。

女性、こころの悩み電話相談

047-485-7333

毎週火・木・金曜日 午前9時～午後4時
（祝日、年末年始 [12月27日～1月4日] を除く）
専門の女性相談員がうかがいます

男性のための電話相談

043-285-0231

（お問合せ：千葉県男女共同参画センター 043-252-8036）
毎週火・水曜日 午後4～8時
専門の男性相談員がうかがいます



15年の努力、結実して

『時代を駆ける 吉田得子日記 1907-1945』出版記念会

男女共同参画センター支援団体の「女性の日記から学ぶ会」が、明治・大正・昭和の時代を生きた「吉田得子さんという女性の日記」を15年かけて研究し、『時代を駆ける 吉田得子日記 1907-1945』と題して本を出版しました。

6月9日、エルムサロンにおいて、出版記念会を開催しました。まず代表の島利栄子さんが挨拶に立ち、膨大な量の日記を手にしてから、会員と共に15年という歳月をかけ、情熱を傾けて翻刻を続けてきた奮闘、努力、



15年の活動を振り返る代表の島利栄子さん。

苦労を思い起こしつつ、夢中になることができるものがある幸せなどについてお話ししました。

当日は記念講演として、元NHKエグゼクティブ・アナウンサーで現在は千葉県男女共同参画センター名誉館長の加賀美幸子さんから『ここを動かす言葉』と題して、ご講話をいただきました。

「吉田得子さんの日記には、日々の小さな喜び、思わず口元がほころんでしまうような日常のエピソード、ちょっとした家族への愚痴や、悲しい出来事から歴史的な事件までが、いきいきと綴られており、当時の女性が暮らしの中でどんなことを感じていたかを読みとくことができます。

また、昔の女性ならではの言葉遣い『いと〜』『〜たまふ』『〜なり』など、現代では使われなくなった、



みずのわ出版より発売中



加賀美幸子さんの柔らかな口調のお話に引き込まれました。

美しく心安らぐような響きの表現があります。万葉集や枕草子に出てくるような古典的な言葉遣いを明治の女性も書き言葉として使っていたのだと、あらためて気づかされたりもします。

明治時代と言えば、日記を書く女性はかなり少なかったと思います。そして、ご息子が現代まで大切に保管され、今回、女性の日記から学ぶ会にご寄贈下さったことは、得子さんの思いが、時を超えて私たちに届けられるめぐりあわせだったのではないのでしょうか。

日記には、当時の出来事が女性の視点で語られていて、近代史を知る上でも非常に興味深い史料であるとも言えるのではないのでしょうか。」と、限られた時間の中でたくさんのお話をいただきました。

会場には、吉田得子日記原本38冊や、翻刻・編集資料、また会の活動の記録が展示され来場者の方々が興味深く見入っていました。

地域デビュー、仲間づくりの第一歩！

セカンドライフ応援講座「輝く男のセカンドステージ・前期」



5～6月、4日間にわたり、退職した男性たちの地域での活動を応援する主催講座「輝く男のセカンドステージ・前期」を開催しました。

1日目は、倉部佐和子さん(倉部オフィス・倉部話し方教室主宰)を講師に迎え、「地域の人たちとうまくいくコミュニケーションの方法」を学びました。

倉部さんが話し始めに、「みなさん、席に座ったときに隣の席の方に挨拶をしましたか？」と問いかけると、参加者は一様にドキッとした顔。「知らない人でも挨拶をすることで、コミュニケーションが生まれるんですよ。」

うーん、なるほどと納得。そのあと地域活動で役立つ「人をひきつける自己紹介」の方法を学びました。

2日目はウォーキング。我が街八千代の魅力を再発見するため、スポーツ推進員の吉住柳一さん、八幡和子さんを講師に迎え、八千



景色を楽しみながら新川沿いをウォーキング。

代八福神を訪ねました。「八千代に長年住んでいるけど、働いているときには余裕もなく、八福神のことは知らなかった。全部回ってみたい！」と目を輝かせていた参加者のお一人は、その週のうちに全部の八福神を巡って、御朱印を押したと、次の回で嬉しそうに報告していました。

3日目は、福島尚嗣さん(司法書士)を迎え、「最期まで自分らしく」と題し、遺言や相続について学びました。



笑顔がすてき♪

4日目は調理実習。千葉ガス株式会社のエコ・クッキングインストラクターを講師に迎え、手綱寿司、鶏肉とインゲンの梅和えを作りました。

最後はお茶を飲みながら座談会をし、すべての講座を通しての感想を話しました。「またみんなで集まる機会を持ちましょう。水曜日が都合良いし、飲み会もやりたいから、会の名前は『水酔会』で！」と盛り上がっていました。



講師の倉部さんを囲んでハイポーズ！

後期は12月開催予定！11月1日号の広報にて参加者を募集します。地域での仲間づくりにぜひご参加ください♪





小さなシェフが腕をふるう



千葉ガス株式会社・八千代市 共催講座「夏休み特別企画 親子クッキング教室」



ニンジンと格闘中のシェフ。
お母さんは隣でハラハラ。

8月4日、子どものキッチンデビューを応援する「夏休み特別企画 親子クッキング教室」を八千代市と千葉ガス株式会社の共催で行いました。

慣れない手つきで包丁を握る子どもの側では、心配そうに見るお母さん。手を出したい気持ちをぐっところえて、わが子の頑張りを応援していました。

この日作ったのは、イワシの缶詰で作るハンバーグが乗ったロコモコ丼と、牛乳から作るカッテージチーズのサラダ、野菜スープ。デザートには八千代市特産の梨を使ったシャーベットもあって、とても豪華。

できあがった料理を食べて、「おいしい！ お家に帰ったら、お父さんにも食べさせてあげたい！」と、小さなシェフたちは満足そうでした。

わが街の安全を守る

女性消防団員の活躍

八千代市では26名の女性消防団員が、自治会や中学校などでの応急手当講習の指導や住宅用火災警報器の普及啓発活動、また、消防団の広報活動などを行い、地域防災力の向上に努めています。

8月8日、今年4月から消防団に入団した団員を対象に、普通救命講習を行いました。講師は入団9年目の川越悦子さん。胸部圧迫や人工呼吸の方法、AEDの使い方について指導し、実習を行いました。

講習に参加した山根亜子さんは、「八千代の消防レスキュー隊が大好きで、中学生の頃から何度も訓練を見学しに来ていました。以前から団員になりたかったのですが、今年団員の募集があり、念願叶って入団しました。」と話していました。「女性消防団は今年で13年目となり、活動の幅が広がっています。これからも地域のために活動していきたいです。」と名倉道子部長。みなさんの消防活動服が凛々しくて素敵でした。



AEDの操作を一つひとつ確認しながら行う女性団員。

発行：八千代市

男女共同参画課 ☎047-485-7088

男女共同参画センター ☎047-485-6505

住所：八千代市八千代台南 1-11-6

